



## ハクモクレン：(那智勝浦町・和歌山県)

トピックス：優れた自然環境を次世代につなぐために (計画課)

ニュース：総務課、森林技術・支援センター、滋賀森林管理署、

岡山森林管理署、鳥取森林管理署

花草木：ダイオウショウ

我が署のスタッフ：奈良森林管理事務所

森林事務所等紹介：新宮森林事務所 (和歌山森林管理署)

国有林最前線：三重森林管理署

# 優れた自然環境を次世代につなぐために ～令和5年度保護林管理委員会の開催結果から～

## 【計画課】

国有林野事業では、原生的な自然を有する森林を「保護林」、保護林同士をつなぐ森林生態系のネットワークの森林を「緑の回廊」として設定し、厳格に保護・管理しています。

令和4年に採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」に基づき新たに策定された「生物多様性国家戦略2023－2030」において、2030年までに陸と海の30%以上の区域を保全することが掲げられました（30by30目標）。国有林の「保護林」や「緑の回廊」も陸域の保護地域としてカウントされることから、これらの森林は国際目標達成の観点からも非常に重要となります。

各森林管理局では、生物多様性保全の核となる「保護林」や「緑の回廊」を充実させ適切に保全・管理するための意見聴取の場として学識経験者等からなる保護林管理委員会を設置しています。今年度は、令和5年11月6日（月）に会議を開催しましたので、その概要をご紹介します。



ブナの大木に着生するヤシャビシヤク はたがなる（畑ヶ平国有林）



新設予定保護林内で新たに見つかったブナ あかさい（赤西国有林）

### ○保護林等の新設・拡充

はじめに、令和4年度に新設・拡充の方針が決定された3件の保護林について管理方針書の審議が行われました。管理方針書とは、その保護林の概況や管理の方法についてまとめたものです。そのうちの1つで令和6年度新設予定の「あかさい赤西スギ・トチノキ・シオジ等希少個体群保護林（兵庫県宍粟市）」は、今年度の追加調査で斜面中部～上部にかけて新たに天然林の樹種であるモミやブナ、イヌブナの巨木が見つかったため、その結果も併せて管理方針書に反映し、今回の会議で了承されました。

さらに、今年度の保護林等モニタリング調査で新たに判明した保護林・緑の回廊の拡充候補2件についても審議が行われました。1件目が「なめらやま滑山アカマツ・モミ・ツガ等遺伝資源希少個体群保護林（山口県山口市）」で、既設の区域と川を挟んだ反対斜面のツガを中心とする希少な天然林部分の拡充について、2件目が「はたがなる東中国山地緑の回廊」で、畑ヶ平国有林（兵

庫県新温泉町)の南東区域(北西区域は緑の回廊に設定済み)の拡充について、それぞれ審議されました。2件目の緑の回廊の調査は拡充検討区域の天然林エリアで実施し、広くまとまって残るブナ林のほか、滝周辺の急傾斜地では草本性の希少種も多く確認されました。これら保護林・緑の回廊の拡充についても、今回の会議で方針が了承されました。

委員からは、新設・拡充等予定地の多くでシカ被害が深刻であることから、地元行政とも連携したシカ対策の要望が挙がりました。

#### ○報告事項

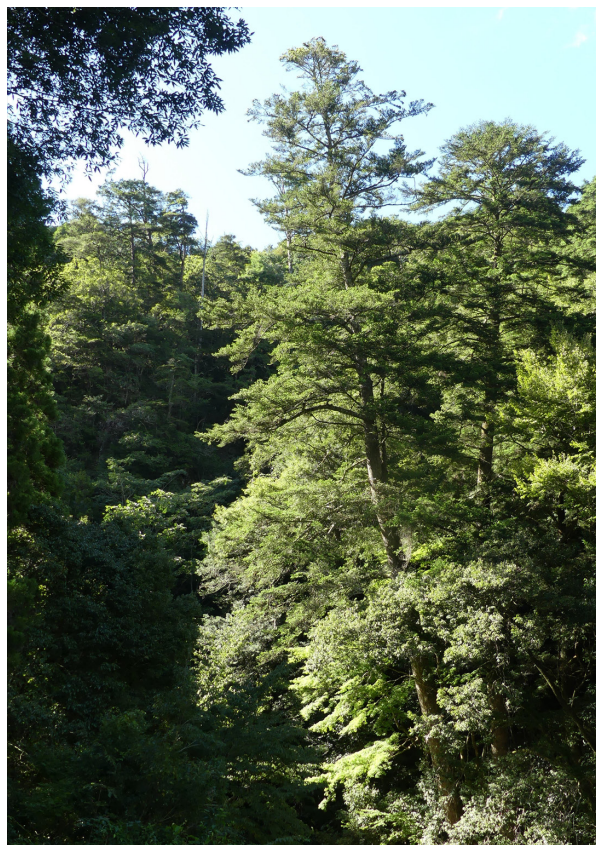
報告事項として、「保護林」及び「緑の回廊」等で実施された各種取組について説明しました。そのうちの2つをご紹介します。

##### ・黒河<sup>くろこ</sup>の湿原植生

福井県のすぐれた自然にも選ばれている黒河山<sup>くろこやま</sup>国有林(福井県敦賀市)内の湿原で、福井森林管理署がシカ食害防止のため新たに植生保護柵を設置し、有識者の指導の下、植生調査などを実施しました。柵設置後の調査では、昨年と比べて希少種の開花数の増加も見られました。来年度には、委員から提案された希少種の成長を促す試験について、現地検討を行う予定としています。

##### ・保護林 PR 用パンフレットの作成

保護林等の PR のため、パンフレット等広報資料の作成について報告しました。4月以降に HP で公開予定です。近畿中国森林管理局としては、生物多様性国家戦略に掲げる国際目標にも貢献すべく、これからも「保護林」や「緑の回廊」等の適切な保全・管理に努めてまいります。



拡充予定区域のツガ(滑山<sup>なめらやま</sup>国有林)



直径 135cm のモミ巨木(赤西<sup>あかさい</sup>国有林)



植生保護柵の設置状況(黒河山<sup>くろこやま</sup>国有林)

## 「官庁公開フェスティバル2024」に参加しました！

【総務課】

3月1日（金）、採用のための情報発信を目的に人事院近畿事務局が主催する「官庁公開フェスティバル」に参加しました。

近畿中国森林管理局では午前と午後の2回に分けて対面開催し、計18名の方々にご参加いただきました。

近畿中国森林管理局の業務説明や、「森林官」を経験



森林官が使用する道具の説明

した職員の間でお話した後、2グループに分かれて庁舎案内と職員とのフリートークを行いました。

庁舎案内では、実際に執務室を回りながら各課の紹介を行うことで、オンライン開催ではお伝えすることが難しい職場の雰囲気をより感じていただくことができました。

職員とのフリートークでは、参加者の皆さんからの様々なご質問にお答えしたり、実際に現場業務で使用している図面や道具を紹介することで、より「森林管理局」という職場を身近に感じていただくことができました。

参加者からは、「実際に現場で働く職員から話が聞けて良かった」「自由対談形式で気軽に質問できた」「実際に官庁内の見学ができたのが良かった」等、嬉しいご意見をいただきました。

近畿中国森林管理局では、今後もこのような説明会へ積極的に参加する予定です。

皆様のご参加を、職員一同お待ちしております！



会場の様子

## 大山町財産区議会の座学研修を行いました。

【森林技術・支援センター】

2月13日（火）、鳥取県大山町及び大山町財産区議会会員11名の皆様に「森林・林業技術視察プログラム」に基づく研修に参加いただきました。

今回の研修では、当局が取り組む早生樹（コウヨウザン、センダン）、一貫作業システムとコンテナ苗活用に関する技術開発試験等の目的や意図等を説明しました。



画面モニターを使っての説明

冬期は積雪により現地での視察が困難なため、全ての時間を座学形式とし、参加者に分かりやすい研修となるよう、新たな取り組みとして動画資料等を作成し説明等を行いました。参加者からは「映像等も分かりやすく知見が広まった」等のご意見をいただくとともに、様々な質問が出され、活発な意見交換の場となりました。



会場の様子

森林技術・支援センターでは、引き続き、当プログラムを活用しながら民有林関係者の技術的支援を積極的に行ってまいりますので、視察のご希望等がございましたらお問い合わせください。

[https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g\\_center/index.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/index.html)



## 滋賀県甲賀市水口町「みなくちこどもの森」で出張講座を行いました。

【滋賀森林管理署】

2月18日（日）、滋賀県甲賀市水口町の「みなくちこどもの森」においてシカ捕獲（くくりわな）講習会を実施しました。今回の講習会は、シカ等による農林業被害が多い甲賀市の農林業関係者の方々に林野庁の職員が考案した「小林式誘引捕獲法」の普及を行いたいという甲賀市役所からの要望を受けて実施することとなり、地元及び周辺の猟友会から19名が参加しました。



局担当職員からのシカ対策の講義

講習会では、近畿中国森林管理局の担当職員から、管内におけるシカによる被害状況とその対策について講義を行い、地域の市町村と連携した協定の取組や、効率的に捕獲を進めるための捕獲法（小林式誘引捕獲法）・捕獲個体の処理（大型排水管を活用した<sup>ざんさ</sup>残渣処理）などの取組について紹介を行いました。

続いて「小林式誘引捕獲法」のくくり罠設置方法等について講義を行いました。小林式誘引捕獲法とはシカの習性を利用した捕獲法で、餌を用いて誘引するので林道や作業道周辺に仕掛けることで見回りがし易くなり、初心者の方にも簡単に捕獲することができる方法です。



当署地域林政調整官による罠の設置方法の説明

その後、森林内で小林式誘引捕獲法の実演を行い、参加者も二人一組となって実際に罠を設置する実習を行いました。参加者は熱心に写真を撮影したり、罠について詳細に質問をするなど興味深い様子で、「今回学んだことをすぐ実践してみたい」との声が聞かれるなど関心を持っていただけました。



職員による小林式誘引捕獲法の実演



くくり罠設置の様子

滋賀森林管理署では、今後もシカ捕獲対策など地域の森林・林業の発展に貢献できるよう引き続き取り組んでまいります。

小林式誘引捕獲法は局ホームページでも紹介しています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sodateyou/171225.html>



## にちなん中国山地林業アカデミーの現地視察・実習を実施しました。

【岡山森林管理署】

岡山森林管理署では、2月6日（火）、7日（水）の2日間、にちなん中国山地林業アカデミー（以下「アカデミー」という。）の要望により生徒9名を受け入れ、有害鳥獣の生態、森林被害および対策について実習等を行いました。



署長挨拶、管内概要、事業説明

### ○現地実習2日目（2月7日）

大戸山国有林 109 林班（岡山県美咲町）において、防護柵の設置と、「小林式誘引捕獲法」によるくくり罠の設置方法について実習を行いました。

アカデミーの生徒は、職員の指導のもと、有害鳥獣の侵入を防ぐためにはどう設置すればよいか考え、相談しながら作業を行っていました。

また、生徒の中には、狩猟免許は持っているがくくり罠は初めてという者も多く、くくり罠の設置で思うように罠が作動しない場面もあり、試行錯誤しながら実習を受けていました。

岡山森林管理署では、引き続き、現地視察や実習の受け入れを行い、林業大学校等の運営に貢献する活動を進めていきます。アカデミーの生徒の皆様の就職先の林業現場での活躍を期待しています。

### ○座学、現地視察1日目（2月6日）

当日は座学として、シカを主とする有害鳥獣の生息域や、防護柵の設置状況、捕獲による防除について講義を行ったのち、大戸山<sup>だいとやま</sup>国有林 116 林班（岡山県美咲町）に設置した防護柵を視察しました。

アカデミーの生徒は、講義を熱心に聞き、また視察についても、実際に設置している防護柵に触れ、地形に合わせた設置方法や点検・補修について質問していました。



シカ防護柵設置の説明



シカくくり罠の設置の体験

## 日南町森林組合設立60周年記念式典等に出席しました。

【鳥取森林管理署】

2月22日(木)、日南町森林組合(日南町生山)の設立60周年記念式典並びに新事務所落成式典が開催され、署長が出席しました。



式典会場の様子

日南町森林組合は、昭和38年に6つの森林組合が合併して設立され、60周年を迎えられました。

新しい事務所は、木造平屋建て延べ床面積348平方



新しい事務所の内部

メートル、使用木材の98%は町内産木材を使用しており、同町内((株)オロチ)で製造されたスギやヒノキのLVLが約85%使われています。

日南町森林組合では、引き続き森林の循環利用と環境の森づくりを強力に推進することと

しており、当署等も連携して森林・林業・木材産業の「グリーン成長」を目指して取り組みたいと考えています。



新事務所前(左から日南町森林組合代表理事組合長、鳥取県中部森林組合代表理事組合長、鳥取森林管理署長)

## お知らせ

【治山課】

○「令和6年能登半島地震」に関する情報のページを局ホームページに開設しました。



ヘリでの被害調査



近畿中国森林管理局での被害状況確認

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/notohantoujisin240101.html>



## 森林のギャラリー (局庁舎1階)



【技術普及課】

○3月6日(水)～3月27日(水)の展示は、大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター、近畿地方環境事務所、鳥取県八頭町です。

ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【技術普及課】

○「水都おおさか森林(もり)の市2024」

水都おおさか森林の市2024開催決定のお知らせ

日時：2024年10月27日(日曜日)午前10時～

場所：桜ノ宮合同庁舎及び毛馬桜之宮公園

詳細は、随時更新していきます。

乞うご期待ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/index.html>



## 花草木

### 【ダイオウショウ】

ダイオウショウは、北アメリカ東南部を原産とするマツ科の常緑針葉樹で土壌を選ばずに生育します。樹皮は暗褐色で上へいくほど赤くなり、樹齢を重ねると鱗状に剥離します。マツの仲間では世界一長い葉を持つことから「大王」と称され、雄大な樹形を觀賞するため公園や庭園に植栽されます。

日本で一般的なクロマツやアカマツは針状の葉が二本一組で生じる「二葉松」ですが、ダイオウショウは葉が三本一組の「三葉松」です。樹齢を重ねたダイオウショウの葉は長さ20～30cmですが、若い木では40～50cmにもなって枝先に垂れ下がります。参考にクロマツの葉は長さ10～15センチほどです。長い葉が描く曲線は柔らかく美しく、切り枝を生け花に使うこともあり、葉から採取したエキスは美容効果があるとされ、アイマスクやリップパックなどの原料にも使われるそうです。



那智勝浦町（和歌山県）で撮影

ダイオウショウのマツボックリ（球果）は、長さ20～30cmの円柱形で、翌年の10月に熟す。種子は翼のある楕円形で長さは1センチほど。原産地では野生のリスが好んで食べるとのことで、圧倒的に存在感のある巨大なマツボックリはフラワーアレンジメントや工作に使われます。

ダイオウショウ（大王松）の花言葉は「縁起が大変良い」です。

## 我が署のスタッフ 奈良森林管理事務所

上山 星凜（うえやま きらり）(R5年度採用)

### 【現在取り組んでいる仕事は？】

総務グループで経理を担当しています。主には旅費精算、物品管理・調達、支出関係をしています。経理の業務内容は毎月同じような内容なので、徐々に慣れてきていますが経理事務全般をこなすことはできていないので、徐々に全般を担っていきたいと思います。

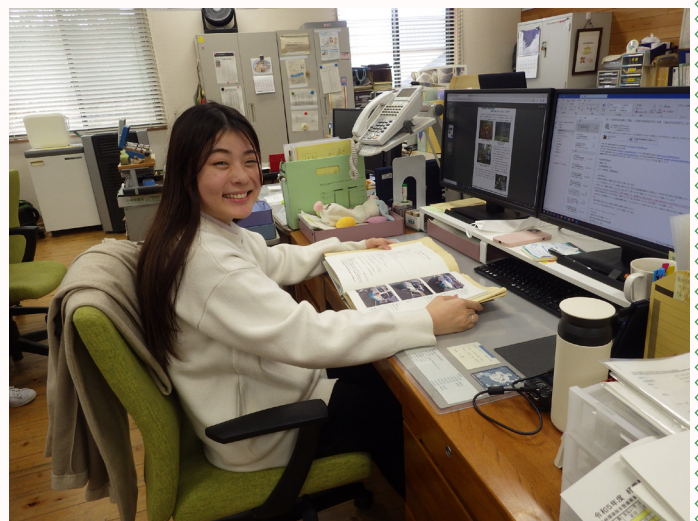
### 【職場の雰囲気は？】

優しい方やおもしろい方が多く、普段から明るい職場です。わからないことがあれば、丁寧に教えてくれるので、すぐに聞くことができる良い職場と思います。

### 【林野庁の魅力は？】

各府県の国有林でお仕事ができたり、その地域の人との関りが生まれたり、休日にその地域を観光することで知れることもたくさんあるかなと思います。

また職場の人も入れ替わるので、様々な人と一緒にお仕事することができて楽しいと思います。



事務室内で執務中です



## 森林事務所等紹介

### 新宮森林事務所（和歌山森林管理署）

#### 地域統括森林官 森永 啓吾（もりなが けいご）

新宮森林事務所は、和歌山県南部の新宮市に所在しています。管轄区域は、新宮市、那智勝浦町、古座川町、北山村一円で、国有林 10 団地 2,418ha、官行造林 5 団地 538ha を管理し、北は奈良県、東は三重県と接しており紀伊山地の急峻な山が特徴です。

森林事務所管内には、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の熊野古道「高野坂」や川の熊野古道「熊野川」のほか、熊野三山の熊野速玉大社（新宮市）、熊野那智大社（那智勝浦町）があり、新型コロナウイルス感染症の規制緩和後は欧米などからの旅行者を多く見かけます。特に、那智山<sup>なちさん</sup>国有林（那智勝浦町）を水源とする日本一の落差を誇る名瀑「那智の大滝」は、荘厳な絶景が多くの人々を魅了し、週末には訪れた参拝客や観光客の車で長い列ができるほどです。



御手洗国有林 熊野古道・高野坂



那智山国有林 ニノ滝

このほか、全国唯一の飛び地の村である北山村は、昔から筏流しが盛んで、現在も観光筏流しが行われています。

また、世界文化遺産のコアゾーンとなっている権現山<sup>ごんげんさん</sup>国有林（新宮市）と那智三峰のひとつ妙法山に位置する



檜皮採取の様子（妙法山国有林）

妙法山<sup>みょうほうさん</sup>国有林（那智勝浦町）では、木造文化財などの修復に必要な檜皮<sup>ひわだ</sup>の採取を行う「檜皮の森」を設定し、檜皮の採取や原皮師<sup>もとかわし</sup>の養成等のためのフィールドとして提供しています。

さらに、大浜国有林（新宮市）は、城下町新宮を太平洋の潮風から守ってきた松原が広がっています。昔は樹齢 200 年以上のクロマツが群生し、キツネやタヌキなども棲息していたそうです。松原は現在も市民の憩いの場として親しまれているほか、目の前の砂浜はウミガメの産卵場所としても知られています。

今年は、「紀伊山地の霊場と参詣道」熊野三山 世界遺産登録 20 周年を迎えます。すでに国内外に記念イベントなどの情報発信が行われており、古道巡りの観光客の定着が期待されるとともに遺産の価値や魅力を再認識する年になるでしょう。

※樹齢およそ 100 年以上の檜（ひのき）の木から、木を伐採せずに立木のまま皮をはぎ取ります。この採取した皮を「檜皮（ひわだ）」と言い、檜皮葺き屋根の材料として使用します。皮をはぎ取る作業を行う職人を「原皮師（もとかわし）」と呼びます。

# シリーズ『国有林最前線！』

## 荒廃した植生の回復に向けた取組 -大杉谷国有林-

### 三重森林管理署

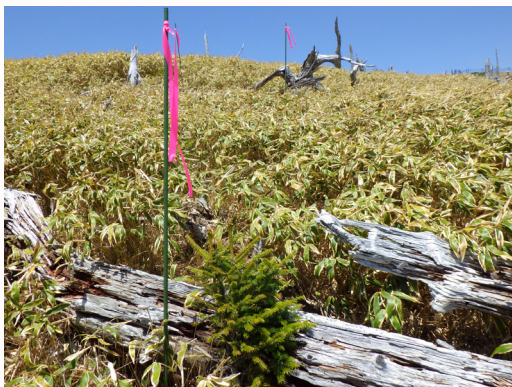
三重森林管理署が所管する<sup>おおすぎだに</sup>大杉谷国有林は、三重県多気郡大台町に位置し、標高 320m から 1,695m の日出ヶ岳山頂まで実に標高差約 1,400m 近くもあり、暖温帯から亜高山帯までの多様な森林が連続してみられる学術的にも貴重な地域であるため、平成 3 年に森林生態系保護地域として設定しています。

しかしながら、昭和 34 年に紀伊半島から東海地方に大きな被害をもたらした伊勢湾台風等により大杉谷国有林は大規模な風倒被害が発生し、その後のニホンジカの個体数増加により多くの森林が衰退し、未立木地が拡大しました。このため、平成 20 年度から 5 年間にわたり被害状況の調査を行い、平成 24 年度に「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針」を策定しました。その指針に基づき、森林後退の拡大の抑止のための植生保護策等の設置、天然林の更新環境の回復のための地域性苗木（大杉谷国有林で採取した種から育てた苗木）の植栽やニホンジカの捕獲等に取り組んでいます。

令和 5 年度は、環境省近畿地方環境事務所との連携した取組の中で、20 名のボランティアの方々とニホンジカ等からの食害から守り成長を促すため、9 本のトウヒの稚樹の周りに植生保護柵を設置したほか、植生の回復を補助するため 0.16ha の未立木地への地域性苗木の植栽・植生保護柵の設置や森林を荒廃させないため 73 頭のニホンジカの捕獲を行いました。ニホンジカ捕獲に関する新たな試みとして、大型排水管を設置し、捕獲したニホンジカの埋設処理を行いました。

これまでの取組の成果として、植生保護柵等を設置した箇所ですトウヒやヒノキ等の生育が確認されています。

今後も長期にわたっての対策が必要な状況であるため、継続的に関係機関と連携し、荒廃した植生の回復に向けて取り組んでまいります。



成長が期待されるトウヒの稚樹



ボランティアによる植生保護柵設置



地域性苗木の植栽（イヌシデ）



埋設処理のための大型排水管